12% 頭金のために暗号を販売した初めての住宅購入者の

Redfinのレポートによると、第4四半期に調査された初めての住宅購入者の9人に1人（11.6%）が、暗号通貨の販売が頭金の節約に役立ったと述べています。これは、2020年の第3四半期の8.8%から2019年の第3四半期の4.6%に増加しています。

「余分な時間とお金を使うための刺激的な方法の欠如で、多くの人々がパンデミックの間に暗号通貨を取引し始めました」とRedfinチーフエコノミストのダリルフェアウェザーはリリースで言いました。「これらの投資の一部は煙に包まれましたが、他の投資は「月に」行った、または少なくとも家の頭金を賄うのに十分な額になりました。」

Redfinは、今後12か月以内に住宅の売買を計画している1,500人の居住者の調査を依頼しました。レポートは、「頭金に必要なお金をどのように蓄積したか」という質問に回答した1,500人の回答者のうち215人に焦点を当てています。最も一般的な回答は「給与から直接節約された」（52%）でしたが、あまり一般的ではなかった回答には「家族からの現金ギフト」（12%）と「早期に退職基金からお金を引き出した」（10%）が含まれていました。

住宅価格の高騰が頭金の増加につながる中、一部の購入者は、コストをカバーし、他の入札者と競争するための非伝統的な方法を見つけています。

「暗号は、世代の富を持たない人々が中産階級への宝くじを獲得するための1つの方法です」とFairweatherは言いました。

ミレニアル世代とZ世代が住宅市場でシェアを拡大しているため、住宅購入者の支払い方法としてデジタル通貨も増加する可能性があります。他の世代よりも多くの暗号通貨を所有しているミレニアル世代は、現在、新しい住宅ローンの半分以上を占めています。

PROVIDENT TITLE COMPANY

SOURCE: THE TITLE REPORT https://bit.ly/3gjZiv9